

平成塾通信講座 2011年

第7回

---

# 大腸疾患Ⅱ

● 編 著 ●

前国立精神・神経センター 病院 薬剤部長

奥津 務



CPC認定昭薬同窓会平成塾

## はじめに

今回は大腸疾患Ⅱとして、下痢、便秘と過敏性腸症候群（IBS）を取り上げました。IBSはともかくとして、下痢や便秘は特別病気といった感覚はありません。一般の健康な人でも経験するごくごく当たり前のことですが、慢性的あるいは仕事上都合が悪いなどで、悩み事となっている方々も多くいらっしゃると思います。薬局の服薬カウンターで相談される機会も数多いのではないのでしょうか。そんな時、下痢、便秘の病態生理を知っておけば役に立つと思います。

一方、重篤な事態を起こす事例については、下痢ですとノロウイルスや腸管出血性大腸炎（O-157、O-111）による感染症などがあります。今年の4から5月にかけて、牛生肉の摂取により数名の方が亡くなられたのは記憶に新しいところです。また、毎年冬になるとノロウイルスによる感染症のことがマスコミに取り上げられます。薬剤師としては副作用として出血性大腸炎や偽膜性大腸炎を起こす可能性のある薬剤を認識しておけば、患者さんへの服薬指導に役立つことでしょう。便秘については、抗コリン作用のある薬剤など便秘を起こしやすい薬剤を把握することが服薬指導につながります。IBSは生活習慣やストレスが影響してきますので、患者さんの背景を広く知ることも必要でしょう。このような点に目を向けながら、気軽にお読み下さい。

2011年11月15日

奥津 務

## 目 次

I. 下痢	
1. 下痢の原因	3
2. 下痢の治療	5
3. 下痢の薬物療法	6
4. Topic	7
II. 便秘	
1. 便秘の分類	8
2. 便秘の治療	9
3. 消化管運動機能改善剤	10
4. 便秘を起こし易い薬剤	12
III. 過敏性腸症候群 (IBS)	
1. 過敏性腸症候群の病態	13
2. IBSにおける内臓知覚過敏	13
3. 過敏性腸症候群の診断	14
4. 過敏性腸症候群の治療	14
IV. 処方例	18
V. 薬剤データ	19
VI. 薬剤師国家試験問題	34
VII. 引用文献	35
VIII. 復習問題	36
IX. 索引	39

## IX. 索引

### 0~9、A~Z

5-HT <sub>4</sub> 受容体刺激薬	11
Ca拮抗薬	12
IBS	13

### あ行

イトプリド塩酸塩	11, 22
イリボー <sup>®</sup>	15, 17

### か行

ガスモチン <sup>®</sup>	11
ガナトン <sup>®</sup>	11
過敏性腸症候群	13~18
緩下剤	10
急性便秘症	8
偽膜性大腸炎法	5
下痢	3~7
抗コリン作用	12

### さ行

酸化マグネシウム	9, 18
出血性大腸炎	3
峻下剤	10
消化管運動機能改善剤	10
症候性便秘	8
止痢剤	6
整腸剤	6
セレキノ <sup>®</sup>	11, 17
セロトニン5-HT <sub>3</sub> 受容体拮抗薬	15
センノシド	10, 12

## た行

タンニン酸アルブミン	6
腸管出血性大腸菌	3
腸内殺菌剤	6~7
トリメプチンマレイン酸塩	11, 23
ドンペリドン	11, 24

## な行

ナウゼリン®	11
ノロウイルス	7

## は行

ピコスルファートナトリウム	10, 30
プリンペラン®	11
プルゼニド®	10, 12
便軟化剤	10
便秘	8~12
ポリカルボフィルカルシウム	15, 28
ポリフル®	15, 17

## ま行

メトクロプラミド	11, 26
モサプリドクエン酸塩	11, 21

## ら行

ラキソベロン®	10
ラモセトロン塩酸塩	15, 19
ロペミン®	32
ロペラミド塩酸塩	32
ローマⅢ基準	14